



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

バハレーン：「半島の盾軍」のバハレーン派遣と非常事態宣言発令

(3月16日)

2月14日から続くシーア派を中心とする反政府抗議デモとバハレーン政府の対立が新たな局面を迎えた。バハレーンのハマド国王は15日、3カ月間の非常事態宣言を発令した。その前日、14日には、サウジの東部州とバハレーンを結ぶコーズウェイを渡って、サウジ軍やUAE警察がバハレーンに入国し、緊張が高まっていた。

<非常事態宣言の発令>

非常事態宣言の中でハマド国王は、王族の一人であるハリーフア・ビン・アフマド国軍総司令官に対して、国と国民の安全の維持に必要な措置をとる権限を付与した。この措置は、国軍、警察部隊、国家警備隊といったバハレーンの治安部隊に加えて、「必要であれば他の如何なる部隊」によっても実行されるという。この「他の如何なる部隊」についてAFP通信は、前日にバハレーン入りしたサウジ軍とUAE警察のことを示唆するものと指摘している。

15日にはデモ隊と治安部隊の間で衝突が発生し、ロイター通信によると3名が死亡（AP通信によると、うち1名はサウジ兵）し、200人以上が負傷した。AP通信は、複数の負傷者がサウジ軍が発砲したと主張していると報じた。それらの負傷者の一人は、サウジの国旗をつけた軍用車が發砲しているのを見たという。15日までの報道を総合すると、2月14日以降の衝突による死者数は10名に上る。

<半島の盾軍の派遣>

サウジ治安部隊のバハレーンでの活動は、抗議デモ発生から早い時期から噂としてささやかれていた。今回はサウジ内閣がバハレーンの支援要請に応じたことを確認したほか、UAEのアブドゥラー外相も約500人の警察官をバハレーンに派遣したことを明らかにしており、デモ隊に対処するために両国による「軍事介入」が行われたことは明白になった。ロイター通信によると、バハレーンに派遣されたサウジ軍の規模は1000人だという。今回の派兵は、GCC合同軍「半島の盾軍」の枠内で行われたものとされている。ロイター通信は、今後カタールも警察を派遣するつもりであると報じた。

<なかなか始まらない対話>

「外国軍」の入国、非常事態宣言の発令といった事態の急変を迎える前の13日、バハレーンのサルマン皇太子は、デモ隊側に対して大幅な譲歩を示していた。同皇太子は、十分な権力を持った国会の開設への支持を表明するとともに、汚職と宗派間の緊張の問題に取り組むことを約束した。しかしデモ隊側は、現在の内閣が総辞職するまで交渉に応じないという立場を貫いている。より強硬なシーア派のグループは、平和的な手段による王制の廃止を呼びかけている。そうしたグループより穏健で、国会で最大野党となっているシーア派の「ウィファーク」は、王制の廃止までは要求せず、憲法の改正や、国王の権限を民選議会に大幅に委譲することなどの民主的改革を目指している。抗議活動で中心的な役割を果たしているのはウィファークであり、王制廃止の呼びかけが支配的になっているという見方は少ないよ

うに思われる。ウィファークの幹部は、今回の「半島の盾軍」の入国および非常事態宣言の発令を非難した。

<イランの「影」>

バハレーンでのシーア派の勢力伸張は、何れもスンナ派の君主が統治する GCC6 カ国にとっては、対岸のシーア派大国イランの影響力拡大につながりかねない脅威として捉えられている。しかし、欧米の通信社はおおむね、バハレーンのシーア派とイランの政治的結びつきはないと報じている。ただし、イラン国内の強硬派は、過去数年にわたるバハレーンのシーア派による権利拡大の努力を称賛していたという。今回のサウジと UAE による「軍事介入」は、GCC6 カ国がイランに少しでも有利な状況が生じることは断固阻止するという意思を示したものである。

そのイランの方は、今回の「介入」について外務省のメフマーンパラスト報道官が、外国軍の存在とバハレーン内政への干渉は受け入れ難く、問題をさらに複雑化させると発言した。これに対してバハレーン外務省の高官は、同報道官の発言はバハレーン内政へのあからさまな干渉であると発言した。さらにバハレーンは、自国の駐イラン大使の召還を即座に決定し、イランに対して厳しい反応を示した。

<米国の曖昧な反応>

バハレーンに海軍の第5艦隊の司令部を置く米国はバハレーン情勢を注意深く見守っている。カイロ訪問中のクリントン国務長官は、バハレーンの全当事者に対して自制を呼びかけ、政治的解決のための交渉をよびかけた上で、サウジ・UAE 部隊のバハレーン入国についての懸念を表明した。しかし同長官は、バハレーン政府には秩序維持のために支援を要請する権利を有すると述べ、「軍事介入」への非難は避けた。

AP 通信は、エジプトのムバーラクに対してこっそり行った、そして現在、リビアのカダフィーに対してあからさまに行っている権力放棄の要求を、米国がバハレーンの王家に対しては行っていないことを指摘している。

(研究員 河井 明夫)